

団体名	荒山林業
所在地	長野県大町市平13499
団体の目的	地域の森林や湖、田園など固有資源を生かし自然と共生する自立経済圏をつくるためのプラットフォーム形成と付加価値型森林産業の開発
活動地域	大町市を核とした北アルプス地域の顔の見える経済圏
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	<p>①地域経済循環を生み出す森林産業の創出 ～拠点施設「ファブリケーションセンター」を核としたグリーン・インフラの構築</p> <p>②出口需要としての木質公共空間・施設</p> <p>③経済的観点からだけではなく情動的観点から再評価し、サービス産業を創出する</p>
地域の現状・課題	<p>長野県大町市の所得循環構造を見ると、各地ソーラー発電所によって、大町市のエネルギー自給は高く、域内におけるエネルギー代金は20億円とプラスであり、ガスと併せると56億ものエネルギー代金を域内に流入しており、流出額は2億円で抑えられている。しかし、これにより、大町市の魅力や宝と考えている自然景観や豊富な水が、今のまま維持ができるかどうかに対して、危機感を感じている。</p> <p>だからこそ、次代まで資源を引き継いでいけるための森林（グリーン・インフラ）の維持を、今から考えていきたい。</p>
地域が持つ資源	<p>○豊かな森林資源 ○内陸性気候によってもたらされる上質な雪○北アルプスの天然水：豊かな山々から得られる美味しい飲料水○自然やアウトドアが好きな人間が多く集まる地域性○芸術が根差した地域性：地元住民有志によるアーティストインレジデンスの企画、北アルプス国際芸術祭）○水資源を利用した地ビール、地酒群○若手プレイヤーのまちなかへの新規出店店舗による賑わい</p>
取組内容	<p>①地域木材を流通させる製材・乾燥・ストックヤード施設およびグリーン・インフラをつくる拠点としてのファブリケーションセンターの建設（試作・人材育成・発信拠点） 湖、森林、雪など自然資源を活用したエコツーリズム</p> <p>②ワーケーションを掛け合わせたエコツーリズム</p>
地域循環共生圏を実践することで想定される効果(変化)	<p>(環境) 地域内で生産された木材を域内で消費・加工することで利益を地域内で循環させ、ウッドマイルージ削減にも貢献する。その結果として里山・飲水資源などグリーン・インフラの強化</p> <p>(経済) 下請け型産業から自立型産業へのシフト、耕作面積の増加、関係人口・転入人口の増加</p> <p>(社会) 地域に住む人の生活満足度を上げる。ものづくりや対話、自分の意見を発表することへのハードルを下げる</p>